

## 新入社員向け社長講話 <骨子>

### 【はじめに】

- ・ 入社おめでとう。基幹職・事務職ともに 100～200 倍の競争率を勝ち抜いた皆さんに、お祝いと敬意を示します。
- ・ 住友商事の社員として、自信を持ちつつもそれが過剰になることなく、初心を忘れることなく社会人生活を楽しんでください。会社生活には楽しいことも苦しいこともあります。配属されたそれぞれの部署で自分を育ててほしいと思います。
- ・ 昨年創立 90 周年を迎えることができた住友商事は、9 年後には 100 周年を迎えることになります。住友商事の 2 世紀目を担っていく皆さん方とともに、200 年、300 年と続いていく会社にしていきたいと思います。住友の歴史は 400 年におよび、当社の経営理念は住友の事業精神に基づいて作成されています。

### 【経営理念から】

- ・ 一昨年のリーマンショック以降、新興国の勃興という地軸の変化や産業構造の変化という 2 つの大きな変化がありました。我々はこの変化をしっかりと見据え、会社の成長につなげていかねばなりません。「変化に対する対応」というのが、今後の住友商事にとって最も大切なものになってくるでしょう。
- ・ かかる転換点にて、「守るべきもの」と「変わるべきもの」があります。

(1) 守るべきもの : 「信用・確実」「浮利を追わず」;

- ・ ビジネス遂行上、最も大事なことは「信用」です。信用を培うのは物事に真摯に取り組むこと、嘘をいわないことから始まります。また、約束をきっちり守ることもとても大切です。日々の小さな約束事をきちんと遂行し、実績を積み上げていくのが信用を勝ち取るための唯一の道です。
- ・ また、「浮利を追わず」というのは、間違った利益の上げ方をしないということです。当社だけが良い、という利益構造をしていないか、世間から後ろ指を指されるような利益の上げ方になっていないかをしっかりと確認するということです。リーマンショックの一連の事実は、「浮利」を追うべきでないことを再認識する際の参考になったのではないのでしょうか。

(2) 変わるべきもの : 「進取の精神」;

- ・ 「信用・確実」で「浮利を追わず」の精神は決して忘れてはなりません、この言葉を曲解し、保守的なだけであっては進歩はありません。変化を先取りし、果敢にチャレンジする「進取の精神」をもち、新しい価値創造をしてほしいと思います。
- ・ 総合商社の仕事の真髄は「リスクをとり、利益を上げていくこと」です。リスクをどう把握し、どう対策を打っていくか。すなわちリスクマネージメントをしっかりと行ってビジネスにチャレンジしていくことが肝要です。
- ・ 今年の年頭挨拶で、「リスクを取らないことこそリスクである」と社員全員に伝えました。当社はリスクをとことん分析してビジネスを行う、いわば「石橋をしっかりと叩いて、タイミング良く渡る」ビジネススタイルです。リスクには予測可能なものと不可能なものがあり、後者に遭遇するのは仕方のないことです。しかし、リスクが表面化する可能性を最小限に抑えるためにどうすればいいのか。その分析と対策をしっかりとできているかどうかが大切なのです。
- ・ 英語で会社はgoing concernと言うくらいですから、ビジネスの世界に変化のない時代はありません。本来、going concernは「うまくいっている事業」といった意味ですが、Concernという単語には心配や懸念という意味もあります。様々な会社が抱える心配を取り除き、懸念を解決することこそが商社のビジネスです。時代の転換点である昨今は心配や懸念を増幅する要素が増えています。しかしこれは、ビジネス・チャンスも大きくなっているのだ、と考えるべきだと思います。これまでになかったビジネスモデルにチャレンジし、クリエイティブの喜びを感じられる場も多くあると思います。
- ・ 変化に対応してそれをチャンスに変えるには、常に変化に敏感でないとはいけません。そのためには、好奇心と向上心を常に持ち続けることが必要です。常に、アンテナを高く、視野を広く持ち、日々、研鑽に励んでください。そうして捉えた変化の兆しを周囲に伝えるためには、チームワークが必要です。周囲の人と情報を共有し、人の意見を取り入れることでよりよい解決策を見出してほしいと思います。また、当社は人材育成に力を注いでいるので、社内研修制度も充実しています。どんどんそういった機会を活用し、向上心をもって成長していきましょう。

### (3) プライドと自責

- ・ どんな仕事にも自信とプライドを持って取り組んでほしいと思います。ただし自信過剰や傲慢につながってはいけません。時には泥臭い仕事に取り組まねばならないこともあるでしょうが、その仕事の本質的な意味と役割を考えてみて欲しいと思います。欧州の寓話で、建設現場で働くレンガ職人が3人いて、それぞれが自分の仕事について語ったという話があります。1人目は「自分はレンガを積むのが仕事だ」

と言い、2 人目は「自分は大きな壁を作るのが仕事だ」と言い、3 人目は「巨大な聖堂を作るのが仕事だ」と言ったそうです。皆さんには、3 人目のレンガ職人と同じ考え方、同じ視点を持って、「自分がやっていることがどういう結果につながるか」を考えて仕事に取り組んで欲しいと思います。

- ・ 業務には失敗や挫折が必ずあります。その際、「上司が悪い」「取引先が悪い」「経済環境が変わった」等と理由を他に見つけるようでは、進歩はありません。**失敗を自らの責任と捉え、問題点を分析して次の成功への糧とすることが大切です。**そのような考えのことを「**自責**」と言い、当社では全役職員が自責で行動することが求められています。失敗したときにどう反省するか。そして、どのように同じ間違いを防ぐか。これらを考えることが、個々人の能力を向上する大きな原動力となるのです。

#### 【終わりに】

- ・ 会社にとって重要なのは今を乗り切ることだけではありません。株式会社として、短期的な好業績も義務付けられていますが、何よりも大事なものはsustainability、つまり**事業継続性**です。5 年先、10 年先を見据えた視点で仕事をしていかねばなりません。皆さんが向上心をもって成長していくことで、会社の成長につなげてほしいと思います。
- ・ 事業の継続は一朝一夕にできることではないですが、一人一人の社員が一つ一つの業務をきちんと毎日こなすことで初めて達成できます。また、**すべての業務はコミュニケーションにより成り立っており、コミュニケーションに一方通行はありえません。**常に相手の側に立ち、相手に理解してもらえるように話すことが必要です。こうして真のコミュニケーションが成り立ち、良いチームワークができれば住友商事のコア・コンピタンスである総合力の発揮につながります。また、**コミュニケーションの基礎は挨拶**です。アメリカなどでは、通りすがりの人同士でも気軽に挨拶をします。住友商事では、社内外関係なく、社会人の常識としてしっかりやってほしいと思います。
- ・ 最後に特に強調したいこととして、コンプライアンスがあります。国の法律や会社のルールに反することは許されません。当社は、わずかでも違反の可能性のあるビジネスは絶対に行いません。たとえ大きな利益が上がるとしても、そのような「浮利」は追わず、**コンプライアンスの徹底**を肝に銘じてください。
- ・ 今日から皆さんは社会人 1 年生として、また住友商事社員としての生活をスタートします。学生とは生活のリズムや時間的な制約も違い、精神的・肉体的にさまざまな変化を感じるでしょう。**変化を上手にマネージし、能力をフルに発揮できる状況を自分自身で創り上げるよう努力してください。**住友商事はワークライフバランス

を大切にしています。会社としても、皆さんが持っている能力を最大限に発揮できる職場環境作りに努めていきます。

- ・ 住友商事を社会に誇れる会社に高めていくには、皆さんの力が必要です。皆さんのこれからの研鑽・成長におおいに期待しています。

以上